# 年報第８号発刊によせて

茨城大学大学院教育学研究科　教育実践高度化専攻長
勝二　博亮

本学教職大学院は，6 コースに改組してから 2 度目の修了生を迎えることとなりました。今年度は，茨城県教育委員会ならびに連携協力校の市町村教育委員会との教育課程連携協議会の中で，教職大学院のカリキュラムに関する点検評価を行い，高い評価をいただきました。また，その中で STEAM 教育など，現代的教育課題に対する教職大学院の果たす役割を期待しているとのコメントをいただきました。

そこで，今年度の教育実践フォーラムにおいて，北海道教育大学の森健一郎教授を招聘して，「学校における STEAM 教育の実践と評価」というテーマで基調講演をしていただきました。講演では，現実社会は「教科」の顔をしておらず，教科を「統合・横断」した世界であること，そのような地域社会にある課題の解決に STEAM 教育は重要な役割を担っていることが紹介されました。さらに，講演の中では，教科の「統合・横断」とはいえ，そのベースには「教科」がやはり重要であることをご指摘いただきました。本学教職大学院では，改組後に教科・領域を横断する「コース間融合科目」を設置し，教科等の「統合・横断」を図ってきました。そのことはとくに STEAM 教育を意識していたわけではありませんでしたが，結果として私たちが取り組んできたことは，STEAM 教育と関わっていたのだということを再確認する機会となりました。

本年度の教育実践フォーラムは，対面参加を復活させて，オンラインとのハイブリッド開催といたしました。そのため，終了後には参加者の懇親会も兼ねて，修了生が集える場としての「ホームカミングデー」を開催いたしました。こちらも，過去のフォーラムでのアンケートでの要望を叶えたものです。ホームカミングデーでは，新しく設置された「茨苑会館内ベーカリーショップ」を会場とし，70 名あまりの参加者が集い，盛大に行われました。今後もこのような交流の場を設定し，交流を深めていくとともに，修了生の活躍や教職大学院に対する希望や期待なども集約できる場としたいと考えております。

毎年発刊しております年報におきましては，前号より内容を大幅に変更し，学生の 2 年間の取り組みをまとめた「実践研究報告書」の抄録原稿を掲載しております。この抄録原稿は Web 上でも公開しております。それぞれの学生諸氏が取り組んだ実践研究は，まだ不十分な点もみられるものの，教職大学院に在学中に取り組んだ成果であり，興味深い研究が多数収録されております。ぜひともご一読いただき，ご助言やご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に，研究の遂行に際して，多くの関係諸機関の方々からご協力をいただきました。さらに，茨城県教育委員会，県内各市町村教育委員会，茨城県学校長会，茨城県教育研究会，そしてさまざまな実習科目にご協力いただいております教育関係機関ならびに社会教育施設等の皆さまには多大なるご支援をいただきました。皆さま方には，心より感謝いたしますとともに，厚く御礼を申し上げます。ひきつづき，ご支援賜りますようお願い申し上げます。